

棟方 寅雄（むなかた・とらお）

1、プロフィール

詩誌「日本詩人」・「詩神」らに詩を発表。福士幸次郎に私淑。また洋画家としては、中川一政・岸田劉生に師事後、一陽会会員として活躍。昭和 33 年上記の詩誌の発表詩を中心にまとめた詩集『邂逅』を刊行した。

<生没>

1902(明治 35)年3月 27 日 ~ 1992(平成4)年8月 11 日

<代表作>

詩集『邂逅』

<青森との関わり>

弘前市に生まれる。詩誌「鴉」らに詩を発表した。戦後、弘前市に居住し、活躍した。

2、作家解説

詩人・洋画家。明治 35 年弘前市相良町に生まれる。十代に短歌の創作を始める。十代の終わり頃、佐藤紅緑宅で福士幸次郎に会い、以後、私淑兄事する。大正 13 年9月「日本詩人」に詩2篇（「貧しき画人」・「あゝぼんやりした此の生」）が掲載された。翌 14 年2月「日本詩人」に福田正夫選により「野原の中央」・「静かにあゆむ雲」が掲載され、その1篇の「野原の中央」が詩話会賞の三席に選ばれる。それ以後「日本詩人」に詩を発表。大正 15 年「日本詩人」終刊後、田中清一主宰の「詩神」に詩を発表する。本県の詩誌「鴉」（昭和2年）・「信号燈」（昭和4年）らに詩を発表する。これ以降詩作から次第に遠ざかっていく。洋画では、中川一政・岸田劉生に師事し、昭和3年以降、春陽会、二科会等に出品した。

戦後弘前に帰郷する。昭和 30 年には一陽会会員となり、活動する。昭和 33 年5月、既発表の詩作品を中心に収録した詩集『邂逅』を刊行した。また、昭和 38 年半年にわたり、イラン・ヨルダン・イスラエルなど各地をスケッチ旅行し、その時

の感興を短歌にまとめ、以前創作した短歌とを併せて、昭和 39 年 11 月歌集『ダ
マスカスの門』を刊行した。兄事した福士幸次郎については、『郷土の先人を語る
(3)福士幸次郎』(昭和 44 年 1 月)がある。平成 4 年 8 月 11 日盛岡市において 90
歳で死去。詩作品数は少ないが、とりわけ戦前の詩は、みずみずしい感性で、日
向的に実存することへの苦悩を、リリカルに描いている。

3、資料紹介

○『邂逅』

図書

1958(昭和 33)年 5 月 10 日

150mm × 120mm

詩集。昭和 33 年 5 月 10 日発行。発行所緑の笛豆本の会。内容は詩 14 篇を収
録。内 10 篇は詩誌「日本詩人」・「詩神」に掲載されたもの。ほかの 4 篇は戦後の
詩作品である。収録されている詩篇の数は少ないが、棟方の詩業の全貌を概観
できる。